

科目名	★博物館資料保存論（2美デ）			開講学年	2	講義コード	1910401	区分	選択	
英文表記	Conservation of Cultural Properties in Museums			開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	末永 崇（非常勤） 松本博幸（非常勤）									
研究室	本館1階 非常勤講師室					オフィス アワー 講義の後				
メールアドレス	splits0926@gmail.com									
キーワード	博物館 美術館 思慮 保存科学 文化財									
授業概要	博物館に勤務することを想定して、資料保存に必要な保存科学の知識の習得を目的とする。また、博物館以外でも、資料（自分たちの制作した作品）をどのように取り扱うべきか、学芸員資格を持つ者としての必須の視点を養う。普段の生活のなかで、自分たちが関心を持つものを保存する際に、保存科学的な視点をどこまで持ち合わせられるか。例えば、自らがこれまで制作した作品を置いた場所を思い出（アトリエ、教室、自分たちの部屋、実家等々）、より良い保存に適した環境に近づけるためには、何ができるのか、何かできることはないか、考えることによって、学芸員資格取得者だからこそ生まれる「資料保存に必要な視点」を身に着ける。 フィードバックは、途中で求める感想文やレポートにコメントを付して返却する形で行う。						関連科目			
							博物館関連科目全般（博物館概論、博物館経営論、博物館資料論、博物館展示論、博物館教育論、博物館実習）			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	身の回りの品の中にある資料の劣化が判り、気付くことができるようになる。								
	②	その資料の劣化原因を想定することができるようになる								
	③	その資料の取り扱い、保護環境改善のアイデアを構想できるようになる。								
	④	の資料に対して、劣化原因を2つ以上、保存環境上評価できる点を一つ以上想定し、善後策を構想できるようになる。								
	⑤									
	⑥									
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	60	20	0	20		100	
教科書	人文系博物館資料保存論 雄山閣 青木 豊 ISBN978-4-639-02219-0									
参考書	文化財の保存環境 中央公論美術出版 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 編 ISBN978-4-8055-0648-6									

予備知識	博物館、美術館に関する知識、日本史、世界史、
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	講義の内容にそったテーマに関するレポートを作成し、提出する。講義中の感想、疑問等の発言、自ら美術館・博物館に赴いた経験に基づいたコメントは積極的に評価する。

授業以外でなるべく多くの美術館、博物館を訪れ、満足したところを記憶せずに記録すること。正規授業…授業開始15分まで／遅刻出席…授業開始30分まで／30分を超えた場合は欠席扱いとする。コピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	資料保存の意義1	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	文化財保護史(古器旧物保存方～文化財保護法までの法制史)			
2回	テーマ	資料保存の意義2	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	保存科学史			
3回	テーマ	資料の劣化・損壊の原因1	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	震災の記録、大規模災害時における文化財の保護			
4回	テーマ	資料の劣化・損壊の原因2	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	経年劣化、生物被害、火災、自然災害			
5回	テーマ	資料保存の意識1—身近な場所での保存方法—	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	保存を想定した設計ではない建物(例:文化財資料室)内での事例紹介、身近な場所での資料保存の意識、工夫、或いは簡易な保存方法の事例解説			
6回	テーマ	資料保存の意識2—歴史的・伝統的な保存方法—	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	土蔵、桐箱、曝涼等の伝統的保存方法と博物館収蔵庫の考え方、事例、正倉院等の温度変化、寺院仏閣における覆い屋保存の紹介			
7回	テーマ	保存科学の役割1—博物館外—	現地研修 グループ ワーク	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	文化財資料室、埋蔵文化財センター等博物館以外の施設における保存科学の役割			
8回	テーマ	保存科学の役割2—博物館内—	実習	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	文化財保護法における公開承認施設、国宝・重文展示の際の保存科学の役割、実習、環境調査時の使用機器と取扱い			
9回	テーマ	資料の取扱いと収納1—博物館外—	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	文化財資料室での取り扱い、収納			
10回	テーマ	資料の取扱いと収納2—博物館内—	実習	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	内容 高湿度、中湿度、低湿度下で保管する資料の取り扱い、収納。資料を扱う心構え、実習 梱包の実際			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元1	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	土器の接合、金属器の錆落とし等出土遺物の整理作業等、主に一次整理の説明			
12回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元2	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	修理と復元、レプリカ展示の意味			
13回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元3	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	鉄器、青銅器、木器等の保存処理			
14回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元4	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	不定期な大規模改修・燻蒸から、IPM、定期的な日常管理へ			
15回	テーマ	博物館学芸員が持つ資料保存の理論を实践するには	実習	これまでの講義内容の整理、まとめを事前に行っておく。	任意
	内容	レポート執筆の時間に充てる 提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます			

科目名	★博物館情報・メディア論（2美デ）				開講学年	2	講義コード	1910501	区分	必修	
英文表記	Museum information and Media				開講期	前期	開講形態		単位数	2.	
担当教員	西住欣一郎（非常勤） 坂本尚文（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス 授業時間後の非常勤講師控室または アワー はメール				
メールアドレス	k8330712@ yahoo.co.jp										
キーワード	学芸員としての知識 学芸員としての技能 学芸員の魅力ある展示 情報発信										
授業概要	<p>本科目は学芸員資格取得を目指す学生の必修科目となっている。学芸員としての専門性を身につけるのは必要なことである。しかし、専門性だけでは学芸員としての資質としては不十分である。博物館等を訪れる人は幅広い年代の方々である。これらの方々に如何に博物館の魅力を伝えられるかが最近の大きな課題となっている。専門的なことを専門用語で解説しては、非常に分かりづらいものになる。分かり易いものにするには、表現だけでなく、視覚・聴覚に訴えるような展示手法や情報発信力が必要である。学芸員資格を取得する過程で、来館者から求められる学芸員としての資質を身につけてもらいたい。フィードバックは、途中で求める感想文やレポートにコメントを付し、返却する形で行う。</p>							関連科目			
								その他の全学芸員科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	博物館や美術館の学芸員としての必要な専門的知識を身につけることができる。									
	②	来館者に向けて様々な知識や情報を分かり易く発信することができる。									
	③	コミュニケーション能力が高まり、人と人との触れ合いが円滑にできる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	90			10	0	100		
教科書	パワーポイント及びレジメを用いる（西住）。 授業の中で指示する（坂本）。										
参考書	授業の中で指示する（坂本）。										

予備知識	<p>・芸術・文化系の学芸員としては、美術史が基礎となる。絵画・彫刻だけでなく、歴史的な出土物についても美術史的な視点で把握することも必要である。歴史的な流れの中で、博物館や美術館での展示を組み立てることが来館者にとって分かり易いものとなる(西住)。・博物館情報・メディア論は、幅広い基礎知識が必要とされ、情報社会の整理する能力が必要とされる(坂本)。</p>
DPとの関連	<p>学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>・レポートの評価は、博物館の学芸員として必要な情報・メディアの活用能力の習得状況を判断するため、レポートの課題を提示する。その課題に対して、適切な観点をもち、学芸員として不可欠な対応ができるかをレポートの記述内容で判断する。・ポートフォリオは、講義での目標を達成しているかどうかを学修到達度レポートで判断する。</p>

日常生活における観察力(スケッチ・メモ・写真)。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ ..... 内容	情報・人・モノの役割 ..... 内容:博物館・美術館にとって一番大切なこと	講義	予習・レポート提出	60
2回	テーマ ..... 内容	情報・人・モノの役割 ..... 内容:博物館・美術館にとって一番大切なこと	講義	予習・レポート提出	60
3回	テーマ ..... 内容	情報・人・モノの役割 ..... 内容:博物館・美術館にとって一番大切なこと	講義	予習・レポート提出	60
4回	テーマ ..... 内容	観客と主催者の役割 ..... 内容:情報をどう伝達するか。	講義 / S G D	予習・レポート提出	60
5回	テーマ ..... 内容	現代文情報を分析する ..... 内容:新聞、テレビ、ウェブサイトから読み取る	講義	予習・レポート提出	60
6回	テーマ ..... 内容	現代文情報を分析する / 博物館・美術館をどう生活 に活かすか ..... 内容:新聞、テレビ、ウェブサイトから読み取る / 行きたくなる博物館・美術 館プラン作成。	講義	予習・レポート提出	60
7回	テーマ ..... 内容	中間試験 ..... 中間試験(レポート作成)	試験	これまでの全復習	90
8回	テーマ ..... 内容	博物館等の現状と情報・メディア論 ..... 博物館等の課題と情報・メディアの意義について	講義	博物館・美術館等の実態の事前学習(博物館等の実見が理 想的)	60
9回	テーマ ..... 内容	博物館等の機能と情報・メディアの利活用 ..... 博物館等の情報化について	講義	博物館等の情報種類についての予習	20
10回	テーマ ..... 内容	博物館等の情報発信 ..... 開かれた学習の場としての役割について	講義	開かれた博物館にするための自分の考えをまとめる(復習)	20

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学芸員の専門的研究部門と情報化	講義	専門的な知識の習得方法についての予習	20
	内容	博物館活動と学芸員の専門性			
12回	テーマ	地域住民にとっての博物館等	講義	生涯学習の内容の予習	20
	内容	生涯学習施設としての博物館等			
13回	テーマ	博物館と著作権について	講義	著作権法の予習	20
	内容	博物館業務と知的財産権・肖像権等の保護の課題			
14回	テーマ	博物館等の展示と情報・メディアの活用	講義	これまでの講義内容の復習	40
	内容	展覧の企画や情報・メディアの展示への活用を学ぶ			
15回	テーマ	定期試験	試験	後半の全復習	90
	内容	定期試験(レポート作成)			

科目名	★博物館実習（3美デ）（通年）				開講学年	3	講義コード	1910901	区分	必修	
英文表記	Museum Practicum : 3rd year				開講期	通年	開講形態		単位数	3	
担当教員	関根 浩子										
研究室	A312						オフィス アワー 金曜放課後				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	学外見学実習 企画(特別)展準備 学外館園実習準備										
授業概要	<p>本科目は学芸員資格を取得するための必修科目であり、学外館園実習に行く前に履修を開始していなければならない科目でもある。学芸員課程において学んだ理論や知識、技術を生かして学内並びに学外の館園で実体験することで、多様な館種の実態を理解するとともに、学芸員として必要とされる知識や技術等の基礎、基本を習得する。配布する資料を予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して下記に掲げた参考書を自主的に参照すること。また、授業時間内で作成できなかった課題は図書館や自宅等で時間を完成させること。フィードバックは、提出されたレポートにコメント入れや赤入れをして返却する形で行う。</p>							関連科目			
								学芸員課程全科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	資料の取り扱いや収集、保管、展示、整理、分類、調査研究の手法を学び、自身でもできるようになる。									
	②	博物館の理念や設置目的、業務の流れを実体験を通して理解できるようになる。									
	③	学芸員としての責任感や意識を身に付けることができるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	30	0	0	10	60	100		
教科書	授業の中で適宜配布する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	学芸員課程全科目
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。特に4年時の館園実習に先立って、これまで学芸員課程科目の履修のなかで学んだことを総復習しながら、美術館や博物館等の専門家となるための専門的知識や技術の修得を確かなものにするとともに、実践力、汎用力、応用力を身に付ける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	見学実習後に提出させるレポートや学内実習における積極性、ポートフォリオ、館園実習先の評価、事前・事後指導時の評価、出席状況を総合して評価する。

原則として、「博物館実習」以外の全での学芸員養成科目が履修済みであることが履修の条件である。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス1	講義	なし	0
	内容	学芸員課程・博物館実習ガイダンス①(4月)			
2回	テーマ	仕事の概要	講義	復習	30
	内容	学芸員の仕事1			
3回	テーマ	仕事の概要	講義	復習	30
	内容	学芸員の仕事2			
4回	テーマ	特別展準備	講義 実 習	復習、企画書作成・立案	90
	内容	展覧会の種類、企画・立案			
5回	テーマ	特別展準備	講義 実 習	企画書作成・立案	60
	内容	特別展の企画・立案、企画書作成1			
6回	テーマ	特別展準備	R-P SGD	企画案作成	0
	内容	企画書作成2、担当決定、作品・資料の選定			
7回	テーマ	学外見学実習1	実習 AL P BL	レポート作成(復習)	90
	内容	学外見学会1回目(近隣の美術館等でのレクチャー受講、見学)			
8回	テーマ	見学会結果報告	PBL	なし	0
	内容	見学会1の結果報告、レポート提出・添削			
9回	テーマ	展覧会準備	実習 AL	復習	30
	内容	出品交渉・依頼方法、借用書の作成			
10回	テーマ	資料の取り扱い	講義 実習 AL	復習	30
	内容	第一次資料(考古・美術作品・古文書等)の取り扱い1			

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	資料の取り扱い	講義 実習 AL	復習	30
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の取り扱い2			
12回	テーマ	資料の梱包	講義 実習 AL	復習	30
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の梱包			
13回	テーマ	資料の計測・実測	講義 実習 AL	復習	30
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の実測、調書作成の計測			
14回	テーマ	資料の写真撮影	実習 AL	なし	0
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の写真撮影1			
15回	テーマ	資料の写真撮影	実習 AL	なし	0
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の写真撮影1			
16回	テーマ	ガイダンス2	講義	なし	0
	内容	博物館実習ガイダンス②、第1回事前指導関連書類配布(3年次)(7月)			
17回	テーマ	学外見学実習2	実習 AL	レポート作成(復習)	90
	内容	学外見学実習2回目(近隣の美術館等でのレクチャー受講、見学)			
18回	テーマ	見学実習報告	PBL	なし	0
	内容	学外見学実習報告・レポート作成・添削2			
19回	テーマ	画像・情報のデジタル化	実習 AL	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	90
	内容	第二次資料の画像・情報のデジタル化1			
20回	テーマ	画像・情報のデジタル化	実習 AL	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	90
	内容	第二次資料の画像・情報のデジタル化2			

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	第1回事前指導	講義	なし	0
	内容	第1回事前指導(実習申込書提出、希望する実習先に関する報告)(9~10月)			
22回	テーマ	資料・作品カード作成	実習 AL	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	
	内容	デジタル化したデータを用いた資料・作品カード作成1			
23回	テーマ	資料・作品カード作成	実習 AL	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	
	内容	デジタル化したデータを用いた資料・作品カード作成2			
24回	テーマ	学外見学実習3	実習 AL	レポート作成(復習)	90
	内容	学外見学実習(3回自)(近隣の美術館等でのレクチャー受講、見学)			
25回	テーマ	見学実習報告	PBL	なし	0
	内容	学外見学実習報告・レポート作成・添削3			
26回	テーマ	特別展準備	実習 AL	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(ポスター、リーフレット、図録等の原稿作成、原稿執筆依頼)			
27回	テーマ	特別展準備	実習 AL	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(マスコミ、他への広報)			
28回	テーマ	特別展準備	実習 AL	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(解説パネル、キャプションの原稿作成、印字)1			
29回	テーマ	特別展準備	実習 AL	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(解説パネル、キャプションの原稿作成、印字)2			
30回	テーマ	特別展準備	実習 AL	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(展示台、展示ケース等の作製・準備)			

科目名	★博物館実習（4美デ）（通年）				開講学年	4	講義コード	1911001	区分	必修	
英文表記	Museum Practicum : 4th year				開講期	通年	開講形態		単位数	3	
担当教員	関根 浩子										
研究室	A312						オフィス アワー 金曜放課後				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	特別展 館園実習										
授業概要	<p>本科目は学芸員資格を取得する上で必ず履修しなければならない必修科目の一つである。学芸員課程において学んだ理論や知識、技術を生かして学内並びに学外の館園で実体験することで、多様な館種の実態を理解するとともに、学芸員として必要とされる知識や技術等の基礎、基本を習得する。配布する資料を予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して下記に掲げた参考書を自主的に参照すること。また、授業時間内で作成できなかった課題は図書館や自宅等で時間を完成させること。</p>							関連科目			
								学芸員課程全科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	資料の取り扱いや収集、保管、展示、整理、分類、調査研究の方法を理解し、自身でもできるようになる。									
	②	博物館の理念や設置目的、業務の流れ等を実体験を通して理解できるようになる。									
	③	学芸員としての責任感や意識を身につけることができるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	30	0	0	10	60	100		
教科書	授業の中で適宜配布する										
参考書	授業の中で適宜配布する										

予備知識	学芸員課程全科目
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。特に、4年時の館園実習に先立って、これまで学芸員課程科目の履修のなかで学んだことを総復習しながら、美術館や博物館等の専門家となるための専門的知識や技術の修得を確かなものにするるとともに、実践力、汎用力、応用力を身に付ける
実務経験のある教員	
評価明細基準	見学実習後に提出させるレポートや学内実習における積極性、ポートフォリオ、館園実習先の評価、事前・事後指導時の評価、出席状況を総合して評価する。

原則として、「博物館実習」以外の全での学芸員養成科目が履修済みであることが履修の条件である。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなします。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス	講義	なし	0
	内容	学芸員課程・博物館実習ガイダンス(4月)			
2回	テーマ	保険料産出	講義 演習	復習	30
	内容	展示品の保険料の算出			
3回	テーマ	特別展準備	実習	担当分が遅れている人は放課後も作業	90
	内容	展示準備(原稿の出力、のりハネ作成、カッティング、ほか)			
4回	テーマ	特別展準備	実習	なし	00
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)			
5回	テーマ	特別展準備	実習	なし	0
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)			
6回	テーマ	特別展準備	実習	なし	0
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)			
7回	テーマ	特別展準備	実習	なし	0
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)			
8回	テーマ	特別展撤収	実習	なし	0
	内容	特別展の撤収(崇城大学ギャラリー一展利用)			
9回	テーマ	特別展撤収	実習	なし	0
	内容	特別展の撤収(崇城大学ギャラリー一展利用)			
10回	テーマ	特別展撤収	実習	なし	0
	内容	特別展の撤収(崇城大学ギャラリー一展利用)			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)			
12回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)			
13回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)			
14回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)			
15回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習			
16回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習			
17回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習			
18回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)			
19回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)			
20回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	事後指導	講義 演習	なし	0
	内容	事後指導 館園実習結果報告(個別面談による事後指導)I(10月~)			
22回	テーマ	事後指導	講義 演習	なし	0
	内容	事後指導 館園実習結果報告(個別面談による事後指導)I(10月~)			

科目名	★博物館概論（1美デ）				開講学年	2	講義コード	2910101	区分	選択	
英文表記	Introduction to Museology				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	高濱 州賀子（非常勤）										
研究室	芸術学部1F 非常勤講師室						オフィス アワー j 授業日講義後の1時間をあてる				
メールアドレス	sugako-ta12@cube.ocn.ne.jp										
キーワード	学芸員										
授業概要	博物館の誕生に始まり、現代に至る歴史、その担ってきた役割、更に現代社会における博物館の在り方を学ぶ。日本で類似施設を含めると6000館に及ぶ博物館だが、種々の問題を抱えているのが現状である。それらを踏まえ、社会教育施設としての公益性、学術研究の蓄積、芸術文化への貢献など様々な課題を検討し、これからの社会で果たすべき役割について学ぶ。授業では博物館の歴史、人文系・自然史系などの種類、公立や法人立などの設置形態の違いなどを学び、博物館法の基本理念に基づく学芸員としての役割を理解する。また博物館における収集・保存・展示・教育の基本的知識を修得する。学芸員資格取得のための必修単位になる。 フィードバックは、途中で求める感想文やレポートにコメントを付し、返却する形で行う。							関連科目			
								学芸員資格取得のための必修科目である。博物館展示論、博物館情報・メディア論、博物館資料保存論、博物館教育論などの科目と関連している。			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	世界と日本の博物館の歴史を学び、歴史上果たした役割を知る。									
	②	博物館法・社会教育法などの基本理念を理解する。									
	③	博物館の種類と組織形態の違いを知り、日本の博物館が抱える問題を考える。									
	④	収集・保存・展示・教育普及など、博物館の基本的事業を学ぶ。									
	⑤	専門職としての学芸員が果たす役割や責任について認識する。									
	⑥	学校教育や地域において博物館・美術館の果たす役割を実例で学ぶ。									
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	10	50	0	0	10	30	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	特になし
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	開催中の任意の展覧会を見て、レポートを提出してもらおう。学芸員として展覧会に関わるとしたらどのような展覧会にしたいか、会場・テーマ・出品作品・広報等、博物館の専門職員としての姿勢に立った見解を見せて欲しい。小テストやポートフォリオにより講義内容の理解や学修達成度を見る。また、出席日数も評価する。

レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなします。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ ..... 内容	世界の博物館の歴史 宮殿・教会・市民等の博物館を通り、近現代博物館への変遷を学ぶ。	講義	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
2回	テーマ ..... 内容	日本における博物館の歴史 明治の帝室博物館から始まり現代の博物館まで、その歴史を学ぶ。	講義	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
3回	テーマ ..... 内容	博物館法について 詳細に解説し、その基本理念を学ぶ。	講義	博物館法を読む。	任意
4回	テーマ ..... 内容	社会教育法・文化財保護法・著作権法など 博物館と関係のある法律を解説し、必要な知識を身につける。	講義	文化財保護法を読む。	任意
5回	テーマ ..... 内容	博物館の種類と組織形態 人文系・自然史系などの種類、公立や法人立等の設置形態などの違いを学ぶ。	講義	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
6回	テーマ ..... 内容	歴史博物館と美術館 取り扱う資料や事業の違いなど、それぞれの特色を学ぶ。	講義	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
7回	テーマ ..... 内容	博物館の仕事 収集・保存・展示・教育普及など、博物館の基本的事業を学ぶ。	講義	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
8回	テーマ ..... 内容	博物館の学芸員とは 専門職としての学芸員が果たす役割や責任について学ぶ。	講義	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
9回	テーマ ..... 内容	博物館資料の保存と修復について 具体例を参考に、その方法や担い手について学ぶ。	講義	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
10回	テーマ ..... 内容	展覧会の意義 展覧会の手法を解説し、その意義や効果について学ぶ。	講義	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学校教育と博物館・美術館の連携	講義	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しまた研究することが望ましい。	任意
	内容	実例を見ながら学ぶ。			
12回	テーマ	博物館におけるボランティア活動や友の会	講義	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しまた研究することが望ましい。	任意
	内容	ボランティアや友の会による支援など、博物館事業のなかで不可欠の活動を学ぶ。			
13回	テーマ	博物館と地域社会	講義	自分の出身地にある博物館・資料館について調べる。	任意
	内容	社会教育施設としての博物館の役割や地域との関わりを学ぶ。			
14回	テーマ	地域の文化財と博物館	講義	熊本地震により被災した文化財について調べる。	任意
	内容	地域の寺社や遺跡、個人蔵などの指定文化財を保護し公開する博物館の役割を学ぶ。			
15回	テーマ	熊本地震による文化財や美術品の被害	講義	被災した熊本城に関する情報を調べる。	任意
	内容	その実態を解説し、修復に向けての課題を検討する。			

科目名	★生涯学習概論（1美デ）				開講学年	1	講義コード	2910201	区分	必修		
英文表記	Introduction to Lifelong Learning				開講期	後期	開講形態		単位数	2		
担当教員	上杉奈緒子（非常勤）											
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 火曜日第5限目					
メールアドレス	nao-uesu@ezweb.ne.jp											
キーワード	学芸員 生涯学習											
授業概要	<p>生涯学習とは何か？「鳥の目、魚の目、虫の目」の視点をもって、主体的、対話的、深い学びを行う。グローバル化し、変化の激しい社会に適応していくためには、学び続けなければならない。「誰もが、いつでも、どこでも学ぶことができ、また、その学習成果を生かす」には、今後、ますます日本人としての自らのアイデンティティを確立し、常に生き方を変革し、社会を変える視点で行動し続けることが必要である。平成18年に教育基本法が改正され、科学技術の進歩、情報化、国際化、少子高齢化などの今日的な課題を踏まえて、教育の基本理念が示された。教育基本法第3条で生涯学習の理念として、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」と規定されている。また、平成30年の中央教育審議会答申等で今後5年にわたる教育振興基本計画が立てられ、生涯学習について新たな取組が求められている。この講座では、生涯学習理念等について世界・日本の大きな目標を知り、「魚の目」の視点で時代の流れに沿った生涯学習の経緯を学び、そして、「虫の目」の視点で身近で具体的な実践例を学んでいくことにする。学ぶ手法としては、ワークショップによる参加体験型学習を取り入れる。社会の課題に対して、自らの問題意識をもって取り組んでほしい。フィードバックは、途中で求める感想文やレポートにコメントを付し、返却する形で行う。</p>								関連科目			
									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分									学修・教育目標			
									JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	専門的職員としての学芸員の使命と果たす役割を生涯学習の観点から具体的に説明することができるようになる。										
	②	生涯学習の歴史的経緯や今後の方向性について法令や答申等をまとめ、説明することができるようになる。										
	③	生涯学習の観点から、資料を基に社会の問題に気付き、解決策を考え提案することができるようになる。										
	④											
	⑤											
	⑥											
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	50	0	30	0	0	10	10	100			
教科書	担当教員作成のテキスト「生涯学習概論」											
参考書	ヒトはなぜ戦争をするのか？ 講談社 アインシュタイン・フロイト 9784062923682											

予備知識	<p>ユネスコは1946年に創設され、今日では一般的となっている生涯学習もその活動の一環としてユネスコが提唱した概念の一つである。我が国における生涯学習は、1981年(昭和56年)中央教育審議会答申「生涯学習について」、1985年(昭和60年)から第4次にわたる臨時教育審議会答申の中(生涯学習体系への移行)、1990年(平成2年)6月いわゆる「生涯学習振興法」成立等により、生涯学習推進の必要性が高まってきたところである。以来、中央教育審議会・生涯学習審議会・大学審議会等各答申が出される中、平成18年教育基本法第3条において「生涯学習の理念」が新設されている。平成30年に、中央教育審議会が「第3期教育振興基本計画」について答申がまとめられた。その基本的な方針として、「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する」「社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する」「生涯学び、活躍できる環境を整える」「誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する」「教育政策推進のための基盤を整備する」とある。今後、生涯学習についても、その関連施設等についても時代とともに変化が求められる。学芸員は、博物館法第4条に基づく専門的職員である。また、博物館は、社会教育法第9条にある社会教育のための機関である。</p>
DPとの関連	<p>学芸員の資格取得のためには生涯学習概論は必修となっている。また、平成30年教育審議会答申における「第3期教育振興基本計画」では、2030年以降の社会を展望した教育政策の重点事項として、「自立」「協働」「創造」の方向性を継続し、超スマート社会の実現に向けた技術革新が進展する中、「人生100年時代」を豊かに生きていくためには、「人づくり革命」「生産性革命」の一環として、生涯にわたる学習や能力向上が必要である。教育を通じて生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化することを今後の教育政策の中心に据えて取り組むとしている。その一つに、「生涯学び、活躍できる環境を整える」としている。本講義では、優れた応用力を有し、社会の多種多様な課題を解決するための課題発見・課題解決能力を身に付けるとともに、専門的職員としての学芸員の使命と役割を身に付けることができる。学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を生かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に貢献できる力を身に付けることを目指す。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>16回目に定期試験を実施し、15回にわたる講義内容について理解することができたのかを評価する。また、講義に関する課題を提示し、レポートやポートフォリオも評価の対象とする。生涯学習は、その理念をどのように具体的に実践するのかが求められており、講義中のワークショップでの発言等も評価の対象とする。</p>

本講義では、ユネスコの生涯学習理念及び日本の教育基本法第3条「生涯学習の理念」を踏まえ、生涯学習社会の構築を目指すうえで、専門的職員としての資質や能力の育成が求められることから、学習者の積極的な参加態度を期待します。また、正規出席については授業開始5分以内、遅刻出席については授業開始30分までとします。30分を超えた場合は欠席扱いとします。なお、レポート等の提出部のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ オリエンテーション	世界はどこへ向かおうとしているのか？これからの社会で生き抜く力を付ける生涯学習（鳥の目、魚の目、虫の目の視点から）今後の学習の方向性を知る。	講義及びSGD	2030年、そのとき世界はどうなっているのか、自分にとって必要な社会を生き抜く力とは何かまとめておく。	20
2回	テーマ 学ぶことは平和をつくる	鳥の目の視点 生涯学習は平和を守る？（ヒトはなぜ戦争をするのか？アインシュタインとフロイトの往復書簡）を読んで、学ぶ意義を知る）	講義及びSGD	日本国憲法前文及び「ヒトはなぜ戦争をするのか？」を読んでおく。生涯学習が平和を守るとはどういうことか考え、自分なりの意見をまとめておく。	40
3回	テーマ 権利獲得の道	鳥の目・魚の目の視点 私たちの学ぶ権利とは？（権利獲得の歴史—マグナカルタから世界人権会議までの資料を読んで、基本的権利について知る）	講義及びSGD	世界人権宣言・子どもの権利条約を読んでおく。自分にとって学ぶ権利とは何かについて、自分なりの意見をまとめておく。	40
4回	テーマ 生涯学習の始まり	鳥の目の視点 私たちは何を学ぶのか？（ユネスコ生涯学習理念—ボールドラングラン「生涯教育」、エドガー・フォール「未来の学習」、ジャック・ドロール「学習：秘められた宝」）	講義及びSGD	ユネスコの生涯学習理念を読んでおく。自分はなぜ学んでいるのか「学ぶことの意義」をまとめておく。	40
5回	テーマ 日本人とは	鳥の目の視点 世界が驚愕した日本人の生き方を学ぶ—グローバル化の中で、私たちは、日本人としてどんな生き方をしていくのか？	講義及びSGD	日本人の生き方について書いた著書を読んで、今自分は日本人として、何を学び、それをどう生かしていくのかまとめておく。	40
6回	テーマ 日本における生涯学習	魚の目の視点 私たちは、何を学ぶのか？～人生100年時代を豊かに生きていくために（日本における生涯学習の流れ）	講義及びSGD	文部科学省HPの中央教育審議会答申・生涯学習審議会答申を読んでおく。社会教育法等の法令についてまとめておく。	40
7回	テーマ 時代とともに変化する生涯学習の流れ	虫の目の視点 審議会答申から見える時代背景と生涯学習の変遷とは	講義及びSGD	文部科学省HPの教育基本法等の法律の改正についてまとめておく。	40
8回	テーマ 学校・家庭・地域の教育力	虫の目の視点 審議会答申から見える青少年の健全育成～生涯学習で子どもを育てるとは	講義及びSGD	文部科学省HPの平成10年代の審議会答申を読んで、青少年を取り巻く様々な問題についてまとめておく。	40
9回	テーマ 学校・家庭・地域が変わる	虫の目の視点 審議会答申から見える生涯学習で開かれた学校づくりとは	講義及びSGD	文部科学省HPの平成20年代の審議会答申を読んで、教育の新しい流れについてまとめておく。	40
10回	テーマ 生涯学習のまちづくり	虫の目の視点 熊本の「ひと・こと・もの」の活用—地域学校協働活動	講義及びSGD	熊本県や各市町村のHPを見て、地域の「人・もの・こと」についてまとめておく。	40

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	社会問題を解決する～負の遺産をどう残すか？	講義及び SGD	社会問題を解決するために活動している著名人のメッセージ を読んでおく。	40
	内容	虫の目の視点「生涯学習は、社会の多種多様な課題を解決できるのか？」～ 著名人のメッセージから読み解く			
12回	テーマ	自分にとっての生涯学習～新しい時代の生き方	講義及び SGD	基本計画」を読んで、自分自身は何を学び続けるのかに気づ き、考え、まとめておく。	40
	内容	虫の目の視点「超スマート社会Society5.0～AIは世界を変える」生涯学習 は、社会の多種多様な課題を解決できるのか？			
13回	テーマ	生涯学習の指導者としての役割	講義及び SGD	「文化財保護法」を読んで、学芸員として文化芸術を守るため に必要なことをまとめておく。	40
	内容	虫の目の視点「学芸員として文化芸術を守る～文化財保護法について考え る（公民館、博物館、美術館などの役割を理解する。）			
14回	テーマ	文化庁及び生涯学習施設としての美術館や博物館 の今後の方向性	講義及び SGD	文化庁のHPを見て、学芸員として何が出来るかをまとめてお く。	40
	内容	虫の目の視点「日本の芸術文化を守る～過去から未来へつなぐ美術館や 博物館の取組を知る。			
15回	テーマ	生涯学習指導者としての学芸員の役割	講義及び SGD	「博物館法」を読んで、これからの学芸員に求められる専門 性についてまとめておく。	40
	内容	生涯学習のまとめ及び学芸員の果たす役割			
16回	テーマ	まとめ			60
	内容	まとめと定期試験			

科目名	★博物館教育論（1美デ）				開講学年	1	講義コード	2910301	区分	必須	
英文表記	Museum Education				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	中村幸史郎（非常勤）										
研究室	本館1階非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間後の非常勤講師控室				
メールアドレス	nakamura0529@hotmail.com										
キーワード	博物館と来館者との関わり合い										
授業概要	<p>本科目は学芸員資格取得を目指す学生の必修科目である。教育基本法及び社会教育法に基づき、博物館法の国民の健全な発達を図るための方策を考えるものである。博物館活動の中でも展示活動や教育普及活動を通じ、来館者に対する教育をどのように行うかについて考える。展示活動と教育普及活動の現状と課題を整理し、自ら教育普及活動を体験し、伝える力と実践力を養成するものである。フィードバックは、途中で求める感想文やレポートにコメントを付し返却する形や、提出物の講評の形で行う。</p>							関連科目			
								博物館資料論、生涯学習論（基礎科目）、博物館展示論（発展科目）			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	教育基本法と社会教育及び博物館法を理解できるようになる。									
	②	博物館の種類を理解できるようになる。									
	③	博物館の業務と学芸員の業務を理解できるようになる。									
	④	博物館の教育普及活動を理解できるようになる。									
	⑤	文化財に対する理解力を身に付けることができる。									
	⑥	博物館の教育普及活動の実践力を身に付けることができる。									
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	50	0	50	0	40	10	0	100		
教科書	使用しない。										
参考書	なし										

予備知識	特になし
DPとの関連	博物館における教育普及活動が行える人材を育成し、学校教育や社会教育との連携を図ることで、教育施設としての博物館の役割を果たすことができる。学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	博物館活動の理解と実践を通して学芸員としての技量の習得度合いを確認する。合わせてレポート作成による博物館活動の理解度を評価する。

レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	博物館教育の目的	講義	配布資料の復習	30
	内容	博物館法などの法律に基づく教育の目的について			
2回	テーマ	博物館の業務	講義	配布資料の復習	30
	内容	博物館の種類と業務について			
3回	テーマ	博物館における教育の意義1	講義	配布資料の復習	30
	内容	展示活動における教育について1			
4回	テーマ	博物館における教育の意義2	講義	配布資料の復習	30
	内容	展示活動における教育について1			
5回	テーマ	博物館における教育の意義3	講義	配布資料の復習	30
	内容	研修活動における教育について1			
6回	テーマ	博物館における教育の意義4	講義	配布資料の復習	30
	内容	研修活動における教育について2			
7回	テーマ	博物館教育の実務1	講義	配布資料の復習	30
	内容	文化財から学ぶ先人の知恵と技術			
8回	テーマ	博物館教育の実務3	講義、実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習1 木造建築の技と道具類			
9回	テーマ	博物館教育の実務4	実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習2 曲尺による計算の方法			
10回	テーマ	博物館教育の実務5	実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習3 石造眼鏡橋の設計方法			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	博物館教育の実務6	実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習4 竹細工の実習 ポジセット作り			
12回	テーマ	博物館教育の実務7	実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習5 竹細工の実習 ポジセット作り			
13回	テーマ	博物館教育の実務8	実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習6 布わらじ作り			
14回	テーマ	博物館教育の実務9	実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習7 布わらじ作り			
15回	テーマ	博物館教育の実務10	実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習8 布わらじ作り			

科目名	★博物館経営論（2美デ）				開講学年	2	講義コード	2910601	区分	必修	
英文表記	Theory of Museum Management				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	清田純一（非常勤）										
研究室	芸術学部棟 1階事務室						オフィス アワー 授業終了後の非常勤講師控室				
メールアドレス	@										
キーワード	博物館運営 博物館経営										
授業概要	<p>本科目は、学芸員資格取得を目指す学生の必修科目となっている。博物館を経営という視点から見ていく。学芸員となった場合の基礎的な知識と技術を理解し、身につける。フィードバックは、途中で求める感想文やレポートにコメントを付し、返却する形で行う。</p>							関連科目			
								その他の全学芸員課程科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	博物館を博物館経営の面からみる方法を十分理解することができるようになる。									
	②	博物館を巡る社会的状況について十分理解できるようになる。									
	③	博物館の表には表れない事象について理解できるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	40	40	0	0	10	10	100		
教科書	授業の中でその都度、教示する										
参考書	ミュージアム・マネージメント博物館運営の方法と実践 東京堂出版										

予備知識	博物館教育論・博物館概論・博物館情報メディア論・博物館展示論・博物館資料論・博物館資料保存論
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	基礎的な事項から講義を積み重ねていくので、授業に出席し、講義を聞くことが必要である。授業の取得の評価は、小テストやレポートの他、授業中の受講態度で判断するので、授業への積極的な参加が望まれる。

同上。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の  
注意  
(SBOs)

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	博物館になぜ経営は必要か	室内講義	配布資料の復習	90
	内容	博物館になぜ経営は必要か			
2回	テーマ	博物館の人材	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館の人材(1)			
3回	テーマ	博物館の人材	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館の人材(2)			
4回	テーマ	博物館経営の手法	同	配布資料の復習	90
	内容	マネージングと利用者調査			
5回	テーマ	博物館経営の手法	同	配布資料の復習	90
	内容	事業の評価とシステム			
6回	テーマ	博物館の経営形態	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館の経営形態(1)			
7回	テーマ	博物館の経営形態	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館の経営形態(2)			
8回	テーマ	博物館の経営形態	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館の経営形態(3)			
9回	テーマ	博物館を取り巻く人々	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館を取り巻く人々(1)			
10回	テーマ	博物館を取り巻く人々	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館を取り巻く人々(2)			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	博物館を取り巻く人々	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館を取り巻く人々(3)			
12回	テーマ	博物館を取り巻く人	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館を取り巻く人々(4)			
13回	テーマ	博物館の情報	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館の情報			
14回	テーマ	博物館経営と情報	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館経営と情報			
15回	テーマ	博物館には何が必要か？	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館には何が必要か？			

科目名	★博物館資料論（2美デ）				開講学年	2	講義コード	2910701	区分	選択	
英文表記	Theory of Cataloging and Curation for Art Museum Collection				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	村上 哲（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業終了後の教室				
メールアドレス	artcuration0912@gmai.com										
キーワード	美術館 第一次資料 絵画 版画 彫刻										
授業概要	博物館資料／美術館資料とは、博物館／美術館の活動の基底・基軸に位置づけられるものである。本講義ではこの観点に基づき、美術館資料の概念と位置づけ、キュレーターの役割と使命、作品の調査・研究・取扱い、コレクションの形成・構築と収集の体系化への視座、作品資料の分類・管理・保存・継承を理解するとともに、内外の美術館の具体的な美術館資料を用いての課題研究と演習を通じて、博物館資料／美術館資料に関する基本的知識と普遍的概念を修得し、博物館学の他の科目の項目へも横断的に言及しつつ、芸術文化の存在意義と課題を考える。フィードバックは、途中で求める感想文やレポートにコメントを付し、返却する形で行う。							関連科目			
								その他の全学芸員課程科目（概論、経営論、資料保存論、教育論、展示論、情報・メディア論等）			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	美術館資料の概念と位置づけ、作品資料の調査・研究・取扱いの技術と知識を学ぶことにより、文化芸術への高度な専門性を獲得すること。									
	②	コレクションの形成・構築と収集の体系化への視座、作品資料の分類・管理・保存・継承を理解することにより、文化芸術への高度な専門性を獲得すること。									
	③	美術館の具体的な美術館資料を用いての課題研究と演習プレゼンテーションを通じて、文化芸術への高度な専門性を獲得すること。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	40	30	0	10	20	100		
教科書	ランス美術館・絵画コレクション展展覧会図録 ランス美術館展主催機関 ランス美術館、村上哲 他 パリ国立図書館・版画コレクション展展覧会図録 パリ国立図書館版画コレクション展主催機関 パリ国立図書館、村上哲 他 THE CURATOR'S HANDBOOK フィルムアート社 エイドリアン・ジョージ著										
参考書	新博物館学教科書 博物館学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 株式会社 学文社 大堀哲、水嶋英治 978-4-7620-2284-5 ほか 博物館展示論 株式会社 講談社サイエンティフィック 黒沢浩 978-4-06-156531-9										

予備知識	博物館学の他の科目(概論、経営論、資料保存論、教育論、展示論、情報・メディア論等)の項目へも横断的に言及しながら、芸術文化資料の総合的な理解を目的とするため、体系的・包括的な考察を心がけること。
DPとの関連	学芸員資格課程を履修することで培った基礎知識や専門知識、理論的思考力、芸術的視点を活かして、社会で美術館などの文化施設における高度の専門家(キュレーター、レジストラ、コンサバター等)として、文化や芸術の発展に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	レポート(40点)、成果発表(30点)、ポートフォリオ(10点)、授業態度・積極性(20点)

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題(予習・復習)	時間(分)
1回	テーマ ..... 内容	博物館資料/美術館資料の概論およびキュレーター(学芸員)という職業についての概念と役割、本課目のオリエンテーション 博物館/美術館の活動の基底:基軸となる博物館資料/美術館資料の概論およびキュレーター(学芸員)という職業についての概念と役割を学び、本講義のスケジュールと履修内容についてのオリエンテーションを行う。	講義	配布資料を再読して、講義から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
2回	テーマ ..... 内容	博物館資料/美術館資料の調査・研究法と取扱い(1) 絵画・版画・素描・平面等 学芸員として必要な博物館資料/美術館資料の調査・研究法と取扱い(1)の枠組みで、絵画・版画・素描・平面作品・掛軸・屏風・卷子類等の構造と歴史および調査・研究法と取扱いを学ぶ。	講義	配布資料を再読して、講義から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
3回	テーマ ..... 内容	博物館資料/美術館資料の調査・研究法と取扱い(2) 彫刻・工芸・立体・メディア等 学芸員として必要な博物館資料/美術館資料の調査・研究法と取扱い(2) 彫刻・工芸・立体・ミクストメディア作品等の構造と歴史および調査・研究法と取扱いを学ぶ。	講義、実技	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
4回	テーマ ..... 内容	博物館資料/美術館資料のコレクションの形成と構築・体系化(1) 国内美術館、県内美術館の事例を検証しながら、博物館資料/美術館資料のコレクションの形成と構築・体系化(1)(ヴィジョン・方針策定、作品リサーチ、所蔵者リサーチ、作品研究、来歴調査)に対する認識を深め、美術館での活用法を学ぶ。	講義、実技	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
5回	テーマ ..... 内容	博物館資料/美術館資料のコレクションの形成と構築・体系化(2) 国内美術館、県内美術館の事例を検証しながら、博物館資料/美術館資料のコレクションの形成と構築・体系化(2)(関連作品調査、対外交渉、内外調整、借受・保管・管理、購入・寄贈・収集)に対する認識を深め、美術館での活用法を学ぶ。	講義	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
6回	テーマ ..... 内容	絵画資料(油彩画、素描)の調査・研究・活用・分類・管理・保存 美術館資料のうち、絵画資料(油彩画、日本画、素描)の調査・研究・活用・分類・管理・保存の方法を学ぶ。	講義	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
7回	テーマ ..... 内容	フランス・ランス美術館絵画コレクションの調査研究と企画実例検証 フランス・ランス美術館絵画コレクションによる作品の調査研究と企画構成の実例を学びながら、調査研究と企画実例検証に対する認識を深め、美術館での活用法を学ぶ。	講義	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
8回	テーマ ..... 内容	フランス・ランス美術館絵画コレクションによる内容研究・企画構成演習 フランス・ランス美術館絵画コレクションによる企画実例を学んだことを踏まえて、コレクションの内容研究と企画構成(作品目録作成、調書作成、文献資料編纂、展示構成案の作成)に取り組む。	講義、演習	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
9回	テーマ ..... 内容	フランス・ランス美術館絵画コレクション内容研究・企画構成演習のプレゼンテーションと講評 フランス・ランス美術館絵画コレクションによる内容研究・企画構成に取り組んだ公開プランのプレゼンテーションを実施し、各自の情報共有と意見交換、講師による講評を行う。	講義、プレゼンテーション	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
10回	テーマ ..... 内容	版画資料(古典版画、近代・現代版画)の調査・研究・活用・分類・管理・保存 美術館資料のうち、版画資料(古典版画、近代・現代版画)の調査・研究・活用・分類・管理・保存の方法を学ぶ。	講義、実技	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションの調査研究と企画実例検証	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションによる作品の調査研究と企画構成の実例を学びながら、調査研究と企画実例検証に対する認識を深め、美術館での活用法を学ぶ。	講義	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
12回	テーマ フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションによる内容研究・企画構成演習	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションによる企画実例を学んだことを踏まえて、コレクションの内容研究と企画構成(作品目録作成、調書作成、文献資料編纂、展示構成案の作成)に取り組む。	講義、演習	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
13回	テーマ フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションの内容研究・企画構成演習のプレゼンテーションと講評	フランス国立図書館(Bnf)版画コレクションによる内容研究・企画構成に取り組んだ公開プランのプレゼンテーションを実施し、各自の情報共有と意見交換、講師による講評を行う。	講義、プレゼンテーション	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
14回	テーマ 県内美術館視察見学研修(熊本県立美術館、熊本市現代美術館)	県内美術館視察見学研修(熊本県立美術館、熊本市現代美術館)を実施し、美術館における美術館資料の調査・研究・活用等の実際を学ぶ。	講義、視察研修	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
15回	テーマ 博物館資料／美術館資料に関する総括と展望	博物館資料／美術館資料に関する総括と展望を行うとともに、博物館学の他の科目(概論、経営論、資料保存論、教育論、展示論、情報・メディア論等)の項目に言及し、芸術文化資料の総合的理解度を確認する。	講義、演習	講義全体を通して学んで重要と思ったことを文章にまとめる。	15
16回	テーマ レポート作成				180

科目名	★博物館展示論（2美デ）			開講学年	2	講義コード	2910801	区分	選択	
英文表記	Museum and Exhibition Studies			開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	中村 玲史（非常勤）									
研究室	本館1階 非常勤講師室					オフィス アワー 授業時間後の講義室				
メールアドレス	co07gito@gmail.com									
キーワード	キュレーターの役割 展覧会の企画、開催 展示空間のデザインと展示の実務									
授業概要	<p>本科目は、学芸員資格取得を目指す学生の必修科目となっている。授業概要 1)キュレーターという存在とその役割について理解する。2)展覧会のアイデアを実際の企画として立案していく過程について理解する。3)展示空間のデザインと展示の実務について考察する。4)作品の配置、照明、鑑賞素材の準備など、来場者にとってより良い鑑賞の場を提供することについて考察する。5)予算、交渉、契約他、展覧会を支える諸業務について理解する。学修上の助言 1)テキストは前もって読んでおくこと。2)コメントシートは毎回提出すること。2)美術館や博物館、資料館等のスケジュールについて日頃から関心を持ち、折りに触れて自ら鑑賞の機会を持つこと。フィードバックは、途中で求める感想文やレポートにコメントを付し、返却する形で行う。</p>						関連科目			
							関連科目 1)日本美術史 2)考古学と文化財Ⅰ、Ⅱ 3)生涯学習概論、博物館教育論、博物館概論、博物館情報・メディア論、博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	キュレーターという仕事の内容と役割を認識し、展覧会のアイデアを現実化し、展覧会を開催して終了するまでの一連の業務について理解することができる。								
	②	自己の目指す学芸員のあり方を明確にし、スキルを高めようとするすることができる。								
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計	
	0	0	0	60	0	0	10	30	100	
教科書	THE CURATOR'S HANDBOOK フィルムアート社 エドワード・ジヨン 978-4-8459-1561-3									
参考書	文化財の保存環境 中央公論美術出版 東京文化財研究所 978-4-8055-0648-6 学芸員のための展示照明ハンドブック 講談社 藤原 工 978-4-06-156521-0 美学入門 朝日新聞出版 中井正一 978-4-02-259132-6 美について 講談社現代新書 今道友信 978-4-06-115724-8									

予備知識	予備知識 1)日本美術の流れや時代ごとの特徴、歴史的な文化財や著名な作品、作家に関する一般的な知識。2)西洋美術の流れや時代、国、地域ごとの特徴、歴史的な文化財や著名な作品、作家に関する一般的な知識。
DPとの関連	芸術学部の diploma policy には次の3項目が掲げられている。1)美術やデザインの研究活動を通して培った豊かな感性と社会人として相応しい倫理観を身に付けたもの。2)美術・デザイン領域の専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付けたもの。3)社会における美術・デザインの役割を認識し、現代の課題を発見・解決する能力を身に付けたもの。学芸員養成課程の科目はこの何れとも密接な関連を有する。特に、3)の「社会における美術・デザインの役割を認識し、現代の課題を発見・解決する能力を身に付けたもの」は、美術館や博物館において、資料の収集と保存、調査研究、展覧会の企画、教育普及等に取り組み、一般社会と美術・芸術との接点を創造していく学芸員の資質として重要なものである。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1)受講生は毎回の講義でコメントシートを記入し、提出する。コメントシートは、授業者にとっては、受講生が授業内容をどのように受け止めたか、それについての考察はどうか、という点を把握するためのものである。受講生にとっては、授業内容を整理し、さらにそこから派生する自己の課題と向き合うためのものである。2)受講生は課題レポートを提出する。課題レポートは、提起された課題に沿ってテーマを設定し、借り物ではない自分の言葉で、論理的にテーマに迫っていくものである。この科目の評価の重要な部分を占める。3)以上に加えて、授業態度等を加味して評価を行う。

1)美術館や博物館、資料館等のスケジュールについて関心を持ち、折りに触れて自ら鑑賞の機会を持つように心掛けること。会場で気付いた事柄は、その都度メモを取っておくようにする。その際にはインクを用いたペンではなく鉛筆を使用すること。2)指定の教科書にとどまらず、参考書、関連図書に挙げた書籍も読んでおくことが望ましい。

学修上の  
注意  
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	学ぶにあたって1 美とは何か	講義	復習:配布資料の再読	30
	内容	美しいといふことの意味、芸術とは何か（「美学入門」より）			
2回	テーマ	学ぶにあたって2 美は存在の恵みである	講義	復習:配布資料の再読	30
	内容	美は人間にとって思えば思うほど、貴重な価値ではなからうか（「美について」より）			
3回	テーマ	キュレーターとは	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	キュレーターとは何か、キュレーターの種類等			
4回	テーマ	展覧会の企画	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	デザインとインスピレーション、展覧会概要の文書化、展示作品のリスト作成等			
5回	テーマ	展覧会の予算と資金調達、交渉、契約	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	予算の編成、スポンサーの獲得、交渉、契約、展覧会のスケジューリング等			
6回	テーマ	展覧会の出版物、広報物	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	カタログ作成、執筆依頼、著作権、冊子やパンフレット、ポスター・チラシ等			
7回	テーマ	展示空間のデザイン、空間と来場者	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	空間を歩いての展覧会デザイン、作品の配列、グラフィック、空間と来場者アクセス等			
8回	テーマ	作品借用関連手続き、作家との共同	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	借用依頼、設備の報告、作家や作品貸与者との交渉、作家と共同する場合等			
9回	テーマ	作品輸送と受入れ	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	保険、補償、輸送、作品到着後の対応等			
10回	テーマ	解説素材の執筆と作成	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	キャプション、コーナーパネル、リーフレット、プレスリリース、広報資料等			

## 授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	作品展示設営	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	作品の取り扱い、展示設営スケジュール、作品の固定、展示備品等			
12回	テーマ	照明	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	既設のシステム確認、作品素材による照明レベル、空間の快適性と光等			
13回	テーマ	スタッフの共通認識、オープン	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	スタッフの共通認識、セキュリティ対策、展覧会オープン等			
14回	テーマ	会期中の業務、イベント関連	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	会期中のルーティンワーク、イベント、教育普及、問い合わせ対応等			
15回	テーマ	作品撤収、返却 講義のまとめ	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	会期終了後の作品撤収、返却等			